


外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/01/04

米財政の崖回避で目先の不安遠のく

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>		日本の追加金融緩和期待に沿って値動き	2 - 3
		予想レンジ: 84.80 ~ 90.80 円	
<u>カナダ/円</u>		リスク・オンに傾き易い地合	4 - 5
		予想レンジ: 85.00 ~ 91.20円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



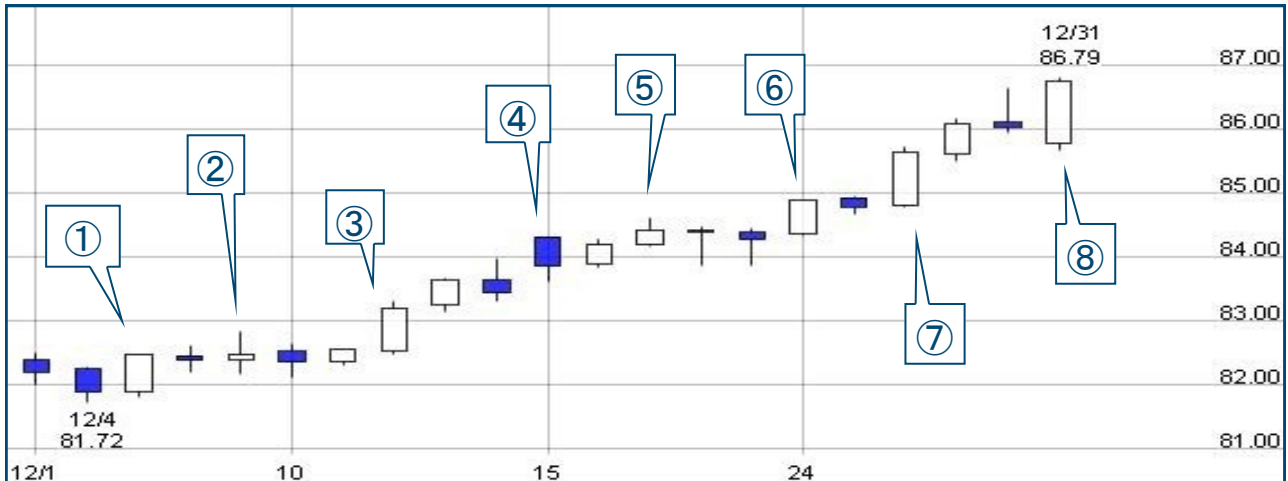
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.38円	86.79円	81.72円	86.75円



- ① 5日、米11月ISM非製造業景況指数が54.7と市場予想(53.5)を上回るとドル/円は上昇。さらに、米国のオバマ大統領が「(共和党が富裕層への増税の必要性を認識すれば)一週間以内に財政の崖問題について合意は可能」との見解を示したことや、日本経済新聞の電子版が「自民、過半数獲得へ」とする世論調査の結果を報じたことを受けた円売りが入ると82.44円まで上昇した。
- ② 7日、米11月雇用統計は失業率が7.7%(予想:7.9%)、非農業部門雇用者数は14.6万人増(同:8.5万人増)と、予想より強い内容だった。これを受けてドル/円は82.82円まで急騰。しかしその後発表された米12月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が74.5と予想(82.0)を大きく下回ったことや、バイナー米下院議長による「財政の崖に関して報告すべき進展はない」との発言も嫌気され、ドル/円は失速した。
- ③ 12日、83.00円のオプションバリアを狙った仕掛け的な円売りで上昇。米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明にて「年末のツイスト・オペ終了後に、月間450億ドルの長期国債を購入」「失業率が6.5%に低下するまで異例の低金利を維持する」「2.5%以下のインフレは低金利を正当化」などと示された。発表直後のドル/円はドル売り優勢だったが、米株高・米長期金利上昇となったことからすぐに切り返した。
- ④ 17日、前週16日に行われた本邦衆院選で自民・公明が325議席を獲得し、議員定数(480議席)の2/3を突破する大勝となった。これを受け、ドル/円はオープン前のオセアニア市場で2011年4月以来となる84.48円まで上昇。ただ、買い一巡後は利食い売り等により上げ幅を縮めた。
- ⑤ 19日、欧州株高を受けて上昇するも、米ホワイトハウス報道官が財政の崖問題をめぐる協議について「オバマ大統領は共和党のバイナー下院議長が提案した『第2案』に対して拒否権を発動するだろう」との見方を示すとドル/円は失速した。
- ⑥ 24日、前日に自民党の安倍総裁が「日銀が次回の金融政策決定会合で2%のインフレ目標を設定しなかった場合の対応としては、『日銀法を改正してインフレ目標のアコードを結んでそれを設ける』」などと発言。これを受けた円売りでドル/円は上昇した。
- ⑦ 26日、日銀の金融政策決定会合議事要旨(11月19-20日分)にて「一人の委員は、金融緩和について消費者物価の前年比上昇率1%を達成するまでオープン・エンドとすることを提案」「一人の委員は短期国債利回りの低下を図る手法として、現状の超過準備への付利を維持したまま、短期国債買入れを増額することも考えられるとコメントした」などと記されていたことを受け、一段の金融緩和期待が強まると、円安が進行。さらにNY市場でまとまった規模のドル買いが入ると85.72円まで値を伸ばした。
- ⑧ 31日、米財政の崖協議の混迷を嫌気して85.66円まで下げて始まったが、ジリジリと値を戻し、NY市場で与野党の合意に近いことが示唆されると86.79円までドル高が進んだ。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

12月のドル/円相場は81.72～86.79円のレンジで推移。月間の終値ベースでは5.2%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初に米11月雇用統計の好調な結果を受けてドル高・円安が進むも、その後は米財政の崖問題についての不透明感を嫌気して上値が重い状態だった。しかし、財政の崖問題について次第に楽観的な発言が目立ったこと、日本の安倍新政権に対する、「一段と追加金融緩和を促進させるだろう」との期待感由来の円売りなどによってドル/円は上昇。下旬に入ると、米財政の崖問題について共和党内ですら意見がまとまらず、当初目標とされていたクリスマス前決着が難しくなるなど、マイナス要因が目立ったものの、円先安感が強い中で反応は鈍く、ドル/円はさらに上値を伸ばしていく展開となった。

1月のドル/円相場は新たな材料探しがまずは急務になるだろう。年末年始をまたぐ協議によって、米国の財政の崖問題は目下のところ回避されたが、本質的には先送りにすぎない。連邦債務上限の引き上げ問題と絡め、どこかの段階で再び材料視される公算だ。ただ、目先のところは日本の金融緩和の行方が注目される。日本については、21-22日の金融政策決定会合でインフレ目標の明示や超過準備に対する付利金利の取り扱いなどについて、どのような決定がなされるかがポイントだ。現時点では日銀が安倍首相の意向をくむとの期待が強いいため、円については売り優勢になりやすい地合いといえよう。

もちろん、日々の値動きの手掛かりとして各種米国の経済指標や米長期金利、主要国株価などの動向にも注目したい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 84.80～90.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

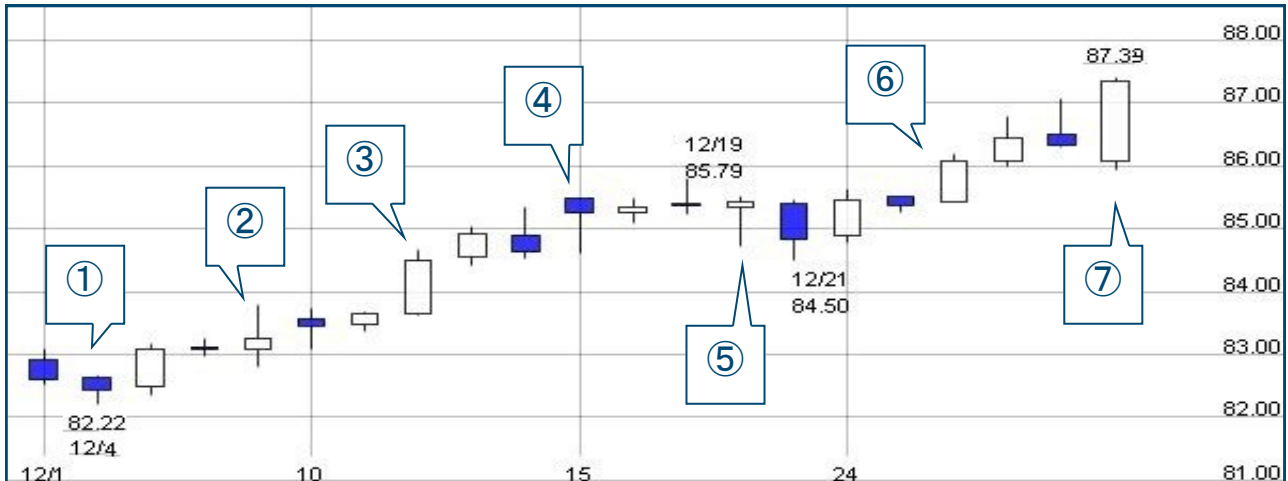
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/4(金)	12月米雇用統計	1/23(水)	日銀金融経済月報・基本的見解
	12月米ISM非製造業景況指数	1/24(木)	12月日通関ベース貿易収支
1/11(金)	11月日経常収支	1/25(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月19日・20日分)
	11月日貿易収支		12月日全国消費者物価指数
	11月米貿易収支	1/28(月)	12月米耐久財受注
1/15(火)	12月米小売売上高	1/29(火)	1月米消費者信頼感指数
	1月米ニューヨーク連銀製造業景況指数	1/30(水)	第4四半期米GDP・速報値
1/16(水)	11月日機械受注		1月米ADP全国雇用者数
	12月米消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
1/17(木)	12月米住宅着工件数	1/31(木)	1月米シカゴ購買部協会景況指数
1/18(金)	1月米フィラデルフィア連銀景況指数		
1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～)		
	1月米リッチモンド連銀製造業指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.91円	87.39円	82.22円	87.34円



- ① 4日、カナダ中銀(BOC)の政策金利発表を前に、カナダドル売りが優勢となると82.22円の安値を付けた。しかし、BOCが政策金利据え置き(1%)と同時に発表した声明で「インフレ目標の2%達成と整合性が取れるよう、金融刺激策を徐々に、幾分緩やかに解除することが必要になるだろう」と引き続き利上げの必要性に言及した事を受けて、急速に買戻しが入ると82.60円台まで反発した。
- ② 7日、加11月雇用統計が失業率7.2%(予想、7.4%)、雇用ネット変化5.93万人増(予想、1.0万人増)と良好な結果となった事に加え、同時に発表された米11月雇用統計も強い結果となった。カナダ/円はこれらを好感して83.79円まで上昇したが、共和党のベイナー下院議長が「財政の崖に関して報告すべき進展はない」「オバマ大統領の戦略は米国を財政の崖に送り出す」などと述べたことを嫌気してドル/円が急反落すると、83.10円台まで上げ幅を縮小した。
- ③ 12日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、ツイストオペの終了に伴い毎月450億ドルの国債買入れと失業率目標(6.5%)が導入された事が明らかになるとNYダウが上昇。カナダドル高・ドル安が進んだ事もあって、カナダ/円は84.66円まで上昇した。
- ④ 17日、16日に投開票された本邦衆院選で自民党が圧勝。自民・公明の両党で3分の2以上の議席を確保した事で、安倍・自民総裁が主張する「大胆な金融緩和」が実現する可能性が高まり、円売りが優勢となると、取引開始直後にカナダ/円は85.49円まで上昇。しかしその後は「材料出尽くし」による円買戻しが強まり、海外市場では84.61円まで反落した。
- ⑤ 20日、日銀は金融政策決定会合後に「長期国債買入れを5兆円、国庫短期証券買入れを5兆円増額」「次回会合で中長期的な物価安定の目処について点検」などと発表した。追加緩和を受けた円売りと「材料出尽くし」による円買戻しが交錯し、カナダ/円は乱高下した。しかしその後は、加10月小売売上高が前月比+0.7%と予想(+0.2%)を大幅に上回った事などから85.50円まで反発した。
- ⑥ 26日、日銀金融政策決定会合議事要旨が発表され、「何人かの委員が、為替への働きかけで一段の工夫必要」などと主張していた事が明らかになると円安が進行。さらに自民党・安部内閣が発足し、財政拡大積極派の麻生氏が財務相に就任した事も円売り材料となり、カナダ/円は86.18円まで上昇した。
- ⑦ 31日、一部通信社が「米『財政の崖』回避に向けたバイデン副大統領と共和党のマコネル上院院内総務の交渉は進展している」と報じた他、共和党のコーカー上院議員が「『財政の崖』の回避で31日に合意に達するだろう」との見解を示すとカナダ/円は86.80円台まで上伸。その後、マコネル上院院内総務が「税制に関する全てで合意に達した」「合意はすぐそこまで来ている」と発言するとNYダウが160ドル超の上昇となりリスクオンの流れが加速、カナダ/円は87.39円の高値を付けた。

CAD/JPY

今月のポイント

12月のカナダ/円相場は82.22～87.39円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.3%の大幅上昇となった。16日に投開票が行われた本邦衆院選で自民党が圧勝すると、20日には日銀が追加緩和に動いた上に、安倍首相が主張してきた物価目標2%の設定や政府との政策協定(アコード)締結について、1月の会合で協議する事を明らかにするなど、緩和拡充に前向きな姿勢を示した。政府と日銀が一体となってデフレ・円高の克服に動くとの期待から、12月は1カ月を通して円売りの流れが続き、カナダ/円は31日には2011年4月以来の高値を記録した。

12月における唯一の懸念材料であった米「財政の崖」問題については、日本時間1月2日に、米議会が「崖」を回避するための法案を可決。連邦債務上限などに一部の問題が残るものの、市場が危機的状況に陥るリスクは大きく後退したと言えるだろう。市場のムードはリスク選好に傾きやすさ地合いであるとともに、1月22日の日銀金融政策決定会合で緩和拡充が決まる可能性が高い事を考えると、1月も円が売られやすい市場環境が続きそうだ。

その他、カナダ/円の値動きに影響を与える材料として、中国の一連の経済指標の結果により同国の景気減速懸念を払しょくできるか、また、カナダ中銀(BOC)の引き締め姿勢が維持されるか、なども注目されよう。(神田)

(予想レンジ:85.00～91.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/2(水)	12月米ISM製造業景況指数	1/18(金)	第4四半期中国GDP
1/3(木)	12月米ADP全国雇用者数		12月中国鉱工業生産
	米FOMC議事録(12月11・12日分)	1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～)
1/4(金)	12月米雇用統計		11月加小売売上高
	12月加雇用統計	1/23(水)	加中銀政策金利発表
	12月米ISM非製造業景況指数	1/24(木)	12月日本通関ベース貿易収支
1/7(月)	12月加Ivey購買部協会指数・季調済	1/25(金)	12月加消費者物価指数
1/9(水)	12月加住宅着工件数	1/30(水)	1月米ADP全国雇用者数
1/10(木)	11月加住宅建設許可		第4四半期米GDP・速報値
	12月米小売売上高		FOMC政策金利発表
1/11(金)	12月中国消費者物価指数	1/31(木)	11月加GDP
1/15(火)	12月米小売売上高		
1/17(木)	12月米住宅着工件数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。